

医師に聞く 専門性の高い医療

未破裂脳動脈瘤が見つかったも慌てずに 「落ち着いてゆっくりと 治療方針を考えましょう」

副院長 富永 二郎 先生(月~木担当)のお話
脳神経外科



「日本脳ドック学会のガイドライン(治療の手引)によれば、脳動脈瘤が直径5ミリ程度まで成長している」「5ミリ未満でも、破裂しやすいような特殊な形をしている」場合は治療を勧めるべきとされています。治療(手術)を選ばない場合は、定期的検査(半年から1年おきに)で大きさの変化をチェックし、様子を見ます。しかし、5ミリ未満であっても「脳動脈瘤破裂(クモ膜下出血)になった家族がいる場合」「血縁者に脳の病気で突然亡くなった方がいる場合」などは要注意です。また、動脈瘤の場所によっても破裂率が違いますし、「ブレブ」と呼ぶ二重に膨らんだ部分があると、動脈瘤の壁が薄くなり、破裂しやすくなります。

5ミリ未満の動脈瘤の破裂により、クモ膜下出血になっていました。「高血圧の改善」と「禁煙」で、破裂の可能性は減らせませんが、現在、手術以外の治療法はありません。そして、未破裂脳動脈瘤は場所や大きさ、形などによって治療の難しさが異なります。「自分の場合はどれくらいの安全度で治療(手術)が可能なのか」「手術をするとしたら開頭手術と血管内手術のどちらが適しているのか」「バイパス術が必要なのか」を、手術経験の豊富な脳神経外科専門医および脳血管内治療専門医に相談し、患者さんご自身が十分な情報を得る必要があります。「頭の中に動脈瘤がある」という精神的圧迫が非常に負担になっている方もいます。

最近、脳ドックや頭痛で頭部MRI検査を受けて、「未破裂脳動脈瘤」が見つかる方が増えています。病名を告げられた方は大変不安になりますが、急に大きくなっていく場合や神経症状が出ている場合を除けば、破裂率は年間1~2%です。数日後、数週間後にいきなりクモ膜下出血を起こす確率は低いので、慌てる必要はありません。まずは落ち着いて、ゆっくりと今後の治療方針を考えるとよいと思います。

私は今まで約3000人の動脈瘤破裂をみてきましたが、ほぼ全例にこのような部分がありました。そして、そのうち約40%の方が、

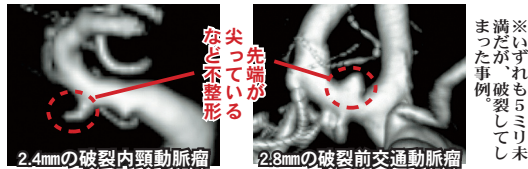
日本脳ドック学会 ガイドライン (治療の手引き)

① 脳動脈瘤の大きさが5 mm以上の場合

→治療(手術)を勧める。

② 5 mm未満だが、先がとがっているなど特殊な形の場合

→破裂しやすいので、治療(手術)を勧める。
又は、定期検査(半年から1年おき)で様子を見る。



※いずれも5ミリ未満だが、破裂してしまった事例

今日からすぐに行える破裂予防

高血圧の改善

急激な血圧の上昇は動脈瘤を大きくしたり、破裂させやすくします。

禁煙

タバコは破裂の危険因子。

取材協力

医療法人 財団報徳会
西湘病院

院長 原 俊介
小田原市扇町1-16-35
80465-35-5773
http://www.seishou.or.jp

中学会専門医。

*富永二郎 / 1991年東海大学医学部卒。医学博士。日本脳神経外科専門医。日本脳卒

次号は『頭を強く打つたらどうすればよいのか?』についてお話しします。

このような方にとって、手術により破裂の危険を取り除く意義は大きいと思います。最終的には、治療の安全度と健康状態を考えながらご自身で決断することになります。